

指定校番号	28113	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	利田 亨次	生徒指導主事	得能 彩子
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒主体のボランティア活動』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』

本校の生徒の課題の1つに、自己肯定感が低いことが挙げられる（H28年7月生徒アンケート『自分には良いところがある』肯定的回答54.6%）。それを踏まえて、本校では、自己肯定感の向上を目指して主体的に学ぶ授業づくりや、生徒主体の生徒会活動を重視し取組を行っている。また、地域との交流を通して、生徒の活動に対する『外部からの評価』が重要であると考え、本校では地域でのボランティア活動や地域・保護者との交流に取り組んでいる。

取組の具体的内容『キーワード 生徒主体の取組』

■校区内高齢者施設「星の里」、校区内保育所「るり保育所」「北久保保育所」でのボランティア活動

- ①高齢者施設や保育所を生徒会執行部、担当教員が訪問し、活動内容について打ち合わせをする。
- ②生徒会執行部がボランティア参加者募集の呼びかけを行う。
- ③ボランティア活動に参加。その後、参加者が活動内容や感想を全校生徒に伝える。

実施日 7月9日(土) 9月10日(土) 10月8日(土) 12月10日(土) 2月11日(土)

<星の里での活動>

<保育所での活動>



車いすの介助の方法を職員の方から学ぶ



交流の様子 折り紙



ブラスバンド部による演奏



園児が遊ぶおもちゃづくり

■地域の清掃活動に参加

- ・2学期の土曜参観日後に地域の方、保護者と共に校区内の清掃活動を実施。
- ・7月31日(日)（尾道住吉花火祭りの翌日）朝7:00～9:00に尾道海岸通りの清掃活動を行う。今年度は、55名の生徒が参加。



清掃活動の様子

■尾道灯りまつりへの参加

- ①生徒会執行部が尾道市立大学美術学科と連携し、西郷寺境内での灯籠の並べ方のデザインを考える。
- ②当日に向けて、地面にデザインを下書きする練習を繰り返す。
- ④10月9日(日)西郷寺において、生徒会執行部と3年生有志でデザインの下書きをし、全校生徒が作成した灯籠を並べ点火する。



尾道市立大学との打ち合わせ



灯りまつり当日 下書きして、灯籠を並べます



■部活動による朝の清掃活動，挨拶運動

- ①毎朝 7:40～8:05，部活動ごとに清掃活動及び挨拶運動を実施する。
- ②登校してくる生徒だけでなく，地域の方にも挨拶を行う。



朝の清掃活動



お世話になっている地域の方へ挨拶

取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒に責任と自覚をもたせる』

・生徒の主体性の尊重

企画，計画段階から生徒の参画を仕組み，生徒の意志や主体性を尊重し活動を実施している。さらに，ボランティア参加の呼びかけを生徒が行ったり，活動報告をしたりすることで，これまで参加したことなかった生徒も活動に興味を持ち積極的に参加しようとする雰囲気づくりの工夫をしている。

・取組の継承と自覚

どの活動も息の長い活動となっている。これまでの生徒が取り組んできたことを生徒会執行部だけでなく全校生徒に紹介し，なぜこの活動が大切なのか伝えてきた。また，尾道灯りまつりの参加については，尾道市立大学と直接連携をとっているのは市内でも久保中学校だけである。この活動に誇りを持ち，自分たちの手で地域の祭りを創りあげていくという意識を持たせている。

取組の成果（効果）『キーワード 自発性や自主性の育成』

生徒アンケートの結果

	H28.12月	H28.7月	7月比
	肯定	肯定	
地域や学校でしっかりと挨拶をするよう心がけている	85.9	85.9	0.0
朝のあいさつ運動(朝の掃除)に積極的に参加している	77.5	65.4	↑12.1
ボランティア活動に参加したことがある	75.9	46.4	↑29.5
異年齢交流(保育所・小学校・星の里)に満足している	73.6	72.7	↑0.9

<自己肯定感に関するアンケート結果の経年変化（現中3）>

	H28.12月	H28.7月	H27.12月
	肯定	肯定	肯定
自分にはよいところがあると思う	49.2	42.3	39.6

少しずつではあるが，取組を通して生徒が自分に自信をもち活動に参加していることが分かった。

今後の展開『キーワード つながり』

・教員が現状維持にとらわれるのではなく、『創造』する気持ちや雰囲気づくりを持ち続け，生徒が主体となった取組を継続させる。校内の様々な教育活動に加え地域の方との交流を図り，外部からの評価を生徒が実感できるようにする。そのことが，自己肯定感のさらなる向上につながることを教員が意識して取組を継続していく。

・外部との交流を単発で終わらせるのではなく，交流で築いた地域の方との関係や絆を学校生活や行事につなげていくことができるよう工夫していく。

他校へのアドバイス『キーワード 地域の強みを生かす』

・生徒実態や地域の強みなどを把握し，その学校に適した活動を実施していくことが大切である。外部の方からいただくエネルギーは非常に大きいということを教職員が理解し，共に生徒を育てていくという姿勢を大切にすることが重要である。